土岐市半世紀物語

~市制施行五十周年を迎えて~

土岐市は、昭和三十年二月一日に、旧土岐津町・下石町・妻木町・駄知町・泉町・鶴里村・曽木村・肥田村の八ヵ町村が合併し、当時県下第三位の人口五万百十三人、九千三百六十一世帯を抱える工業都市として誕生しました。

その当時、市内に立ち並ぶ無数の煙突からは、昼夜を分かたず煙が立ち上り、美濃焼生産地の首都にふさわしい活気に溢れていました。

以来、二宮安徳市長、水野沖三市長、塚本保夫市長の三代にわたる市長のもと、住宅団地や工業団地の造成、道路整備など、都市としての発展を進める一方、荒廃した山々の緑を復活させるなど、暮らしやすいまちを目指し、土岐市はその姿を変えてきました。

今回は、このまちが歩んできたそんな五十年の歴史を振り返ってみました。

Feature Articles

過ぐる半世紀を回顧して

土岐市長　塚本　保夫

市制施行は、私が大学一年生の時であり、感慨無量であります。

その年、期末試験を控えて虫垂炎を患い、手術入院することとなり、できたばかりの名古屋テレビ塔の真下に近い所に下宿いたしましたが、プロレスの力道山が大活躍の時代で、電器店の前は黒山の人だかりであったのが思い出されます。

半年ほどの下宿生活を終えて、帰郷することになり、中央線の土岐津駅で駄知線に乗り換え、いよいよ駄知に入る手前にトンネルがありましたが、そのトンネルを抜けて駄知の街が眼前に広がったのを見て、思わず深くて熱い感動を覚えたものであります。まさに「トンネルを出ると故郷であった」感がし、故郷のありがたさと懐かしさが込み上げてきました。

大学１年生当時の土岐市長

また、当時は青年団活動が活発で、駄知青年団は団員約千人、十二分団で編成されており、私が団長として参加した夏の連合青年団陸上競技大会では、完全優勝の十連覇を達成し、当時の松野知事を迎え、花火を打ち上げての大祝賀会が開催されました。秋には、県代表として全国青年演劇大会で、県下初の文部大臣賞受賞の栄に浴し、皆の力が集まれば、大きな力となることを実感できたことは貴重な経験でありました。

さて、地場の陶磁器産業は当時、トンネル窯築造の初期であり、生産形態も急速に機械化が進み始めましたが、一般的には林立する煙突から幾条もの黒煙が吹き出し、夜には真っ赤な炎が見え、下石町では山の斜面の登り窯からもうもうと黒煙が吹き出すという具合に、大変ダイナミックで活気の感じられる風景でありました。

しかし、燃料が薪や石炭から重油に転換するのに従い、亜硫酸ガスによる公害が顕在化し、その対策として重油の低硫黄化（ローサルファー化）が進み、さらにガスへの転換が進んで環境は改善され、風景も一変いたしました。

こうした燃料革命は家庭にも及び、薪炭材としての木材利用が激減する一方で、長年の熱心な治山事業が実を結び、日本三大荒廃地の一つとまでいわれた土岐の禿山が、特にこの五十年で見事に緑を復活させましたのは、まさに日本のモデルともなる奇跡的なことであります。今日の土岐市の豊かな緑は〝環境の世紀〟を象徴する貴重なものであり、私たち土岐市民の貴重な財産として、今後とも守り育てていきたいものと念願いたしております。

皆さんのご協力をお願いいたします。

連合青年団陸上競技大会十連覇を達成した駄知青年団

土岐市50年のあゆみ

◆昭和30年（1955年）

2月　市制施行、市庁舎を駄知町に置く

土岐市広報
大土岐市輝く誕生
―人口五万余・県下第三位―
大工業都市建設へ
議員の責任重大
祝土岐市建設

市制施行を報じた市広報

駄知町に置かれた市庁舎

◆昭和31年（1956年）

3月　初代市長に二宮安徳氏が当選
5月　第一回市民総合体育大会を開催
8月　第一回土岐市花火大会を開催

2月　土岐市一周駅伝始まる
7月　三国山キャンプ場を開設
8月　国保中央病院開設

◆昭和32年（1957年）

2月　市庁舎を土岐津町に移転
8月　未曽有の豪雨が土岐市を襲う
11月　土岐電報電話局（自動式）が開局

◆昭和33年（1958年）

3月　し尿処理場が完成
5月　市立陶磁器試験場を開設

◆昭和34年（1959年）

9月　伊勢湾台風で甚大な被害

下石小学校が倒壊するなど市内の被害額は14億6千万円に上りました。（写真は倒壊した下石小学校）

◆昭和37年（1962年）

4月　県立土岐高等学校開校

◆昭和38年（1963年）

2月　泉町地内でウラン鉱発見
同月　市民センターが完成

◆昭和39年（1964年）

7月　全国高校ウエイトリフティング大会開催

◆昭和40年（1965年）

2月　泉町に市営球場が完成
4月　市消防署が完成
10月　第二十回国民体育大会を開催

本市でウエイトリフティング・軟式野球を開催

同月　国鉄土岐津駅が土岐市駅に

Feature Articles

◆昭和41年（1966年）
12月 新市庁舎が完成

完成した当時の市庁舎

◆昭和42年（1967年）
7月 第一期旭ヶ丘住宅団地が完成
8月 全日本軟式野球大会を開催

◆昭和43年（1968年）
4月 国鉄土岐市駅舎が完成
6月 市青年の家が完成

◆昭和45年（1970年）
5月 県青少年総合活動センター（若人の丘）が完成
11月 西陵団地が完成

◆昭和46年（1971年）
4月 国道19号バイパス開通
12月 市議会が「公害防止都市」を宣言

◆昭和47年（1972年）
4月 市文化会館が完成
7月 集中豪雨で駄知線の鉄橋が流失

鉄橋は復旧されることなく2年後に廃線となりました。

8月 市学校給食センターが完成
12月 土岐市学制百年記念式典を開催

◆昭和48年（1973年）
3月 泉町土地区画整理事業が完了
8月 浅野土地区画整理事業が完了
9月 中央自動車道多治見ー瑞浪間開通

この開通と同時に土岐ICも供用を開始

◆昭和49年（1974年）
3月 復旧治山事業が完成
10月 東濃鉄道駄知線廃止

◆昭和50年（1975年）
4月 二代市長に水野沖三氏当選
同月 陶史の森が完成

その後幾多の整備がなされ、今では年間来場者数6万人を数える陶史の森（写真は現在の陶史の森）

6月 三国山荘が完成
8月 市民プールが完成

◆昭和51年（1976年）
5月 美濃焼卸商業団地が完成
6月 休日急病診療所開設

◆昭和52年（1977年）
5月 泉北団地の造成完了

◆昭和53年（1978年）

4月　市図書館が完成
同月　特別養護老人ホーム美濃陶生苑が完成
10月　焼津市とスポーツ姉妹都市締結

◆昭和54年（1979年）

4月　県立土岐北高等学校開校
7月　美濃陶磁歴史館が完成
10月　イタリア・ファエンツァ市と姉妹都市提携

イタリアでの盟約式の様子

◆昭和55年（1980年）

2月　市民憲章制定
5月　財産区有林で山林火災、百ヘクタールを消失
10月　資源ごみ回収スタート

◆昭和56年（1981年）

4月　美濃焼伝統産業会館が完成

◆昭和57年（1982年）

4月　市文化プラザが完成

◆昭和58年（1983年）

4月　三代市長に塚本保夫氏当選

◆昭和60年（1985年）

2月　肥田中学校が完成
3月　市浄化センターが完成
4月　公共下水道供用開始

◆昭和61年（1986年）

3月　土岐口土地区画整理事業が完了
同月　土岐津中学校が完成

◆昭和63年（1988年）

3月　濃南中学校が完成
5月　市立総合病院開院
11月　泉中学校が完成

◆平成元年（1989年）

2月　「織部の日」制定
4月　新土岐川橋が開通
7月　西山工業団地が完成
9月　9月20日豪雨災害

◆平成2年（1990年）

2月　市の花・木・歌を制定
3月　市環境センターが完成
同月　ひだ保育園が完成

◆平成3年（1991年）

3月　妻木土地区画整理事業が完了
4月　セラトピア土岐が完成
同月　下石大橋が開通
10月　ウエルフェア土岐が完成
11月　消防庁舎・防災センターが完成
12月　シルバー人材センターが発足

◆平成4年（1992年）

3月　駄知中学校が完成
6月　稚児岩大橋が開通

肥田川の渓谷に架橋されたこの橋は、長さ145m、高さ約60m。夜にはライトアップされた美しい姿を見せています。

Feature Articles

◆平成5年（1993年）
4月　肥田公民館が完成
5月　国指定史跡「元屋敷陶器窯跡」の発掘調査に着手

◆平成7年（1995年）
4月　市総合公園が全面開園
同月　下石公民館が完成
8月　市立陶磁器試験場・セラテクノ土岐が完成
9月　保健福祉センターすこやか館が完成

◆平成8年（1996年）
11月　市衛生センターが完成
12月　恵風荘が完成

◆平成9年（1997年）
12月　環境保全都市宣言
同月　第一回ユーモア陶彫展'97を開催

◆平成10年（1998年）
4月　市史編さん室を設置し、新市史の編さんに着手
7月　道の駅「どんぶり会館」オープン
11月　第一回土岐市農業祭を開催

◆平成11年（1999年）
2月　老人保健施設やすらぎが完成
3月　南消防署・南防災センターが完成
同月　泉西公民館が完成
10月　西陵中学校が完成

◆平成12年（2000年）
8月　全国高等学校総合体育大会（本市でウエイトリフティングを開催）
10月　市民バスときめきとき号運行開始

市庁舎前での発車式の様子

◆平成13年（2001年）
5月　曽木町に上水道が通水し、市内全域で上水道の給水体制が整う
11月　下石小学校が完成

◆平成14年（2002年）
3月　駄知公民館・体育館が完成
同月　地球温暖化対策実行計画策定

◆平成15年（2003年）
4月　織部の里公園が開園

土岐市の歴史・文化の発信拠点として整備された織部の里公園

◆平成16年（2004年）
3月　妻木公民館が完成
4月　道の駅「志野・織部」がオープン
5月　茶室「暮雪庵」織部の里公園に移築完成
8月　土岐川河川災害復旧等関連緊急事業が完了

市制施行五十周年おめでとうございます

今までも これからも このまちで

土岐市の発展とともに生きることができた世代です

纐纈貴美子さん(泉町)

自分が土岐市と同じ年齢だと知ったのは、「土岐市制十周年」と記されたハンカチを学校で受け取った小学校四年生の時でした。そのころは、土岐川の水は白く濁り、窯どこのあちこちの煙突からは、煙が勢いよく上がるという高度経済成長の真っ只中でした。

四十年たった今、土岐市には公共施設・道路・水道などさまざまなハードがそろい、気軽に利用できるようになりました。私たちの世代は、土岐市の発展とともに生きることができたという思いを持ちます。

世の中もIT化がここ数年の間に急速に進んでいます。以前と比べて、なんと便利で豊かになったことでしょう。でも少子高齢社会を迎える今は、少ない歳入の中で市政が運営されねばならない時代となり、今までのようにはいきません。今後は、現在ある物的資源や人的資源(特に中高年者)を生かすことや、子どもを産みたくなる環境を作ることを大切にしていただくことで、生き生きと暮らせる土岐市になることを願います。

このまちの景色もずいぶん変わりました

菅尾勝年さん(妻木町)

中学を卒業後、集団就職の貸し切り列車に揺られて熊本県阿蘇郡から土岐市に来たのは、昭和三十三年の時でした。

そのころは、毎年何百人という子どもが土岐市の「窯やさん」などに就職していました。働き始めたころの給料は、日給二百円くらい。休みも毎月一日と十五日だけで、とにかく休みが待ち遠しかったものです。妻木町に一軒あった映画館に行ったり、野球をするのが娯楽でした。当時は、窯やさんごとに野球チームがあって、野球大会なども開催されていました。ですから、土岐市が軟式野球の開催地になった昭和四十年の国体は、印象深い出来事です。

町中、煙突だらけで活気があったころから五十年近くたって、この町の景色もずいぶん変わりましたが、これからも若い人にもお年寄りにも安全で暮らしやすい町であってほしいです。

妻木町内を走る
国体の聖火リレー

Feature Articles

市制50周年おめでとうございます

俳優 田中邦衛さん
（土岐津町出身）

忙しい今は、あまり田舎に帰れないけど。五十年たつと、きっとまわりの景色が変わっているだろうなぁー。生まれ育った土岐の思い出、火の色を見て薪(まき)をくべる「焼き手さ」と呼ばれる職人さんとの触れ合いが好きで、ガキのころチョロチョロくっついては薪(まき)を運ぶのを手伝ってた。「焼き手さ」は普段はブスっとしてて、でも、窯から茶碗取り出して良い焼き具合だとニッコリする。なーんとも言えない顔なんだよね。家では「焼き手さ」のために米を蓄えていたので、仕事が終わると必ずにぎり飯を出す。そのにぎり飯ちぎって、「おい、坊。食え」って、オレにボソッと言うんだよ。そんな無骨なやさしさは今も忘れない。当時は戦争中で口にするのは芋ばっかり。七人きょうだいで腹すかせてたから、ほーんとうまかった。

十五歳でふるさとを離れ、千葉にある全寮制の高校に入学、短大も卒業して、ふらっと「映画でもやるべかな」と役者を意識したのが、この世界に入るきっかけだったね。当時はニューフェイスという制度が映画スターへの登竜門で、高倉健さんなどがそう。ところが周りからは「おまえ、ニューフェイスはとても無理だ。新劇っていうのがあるけど、そっちのほうがえぇぞ」って言われ、劇団の養成所の試験を受けてみた。年に一回の試験で落ちては田舎に帰り、やっと三度目に俳優座に合格。ちょうど土岐市が誕生した年の昭和三十年、二十二歳の時だった。それ以来、人に恵まれ、役に恵まれ、思いもよらぬ大海に出てしまった。特にテレビドラマ『北の国から』は、ライフワークのような大事な仕事で、演技に対する新たな発見があったと思う。最近の香取慎吾君ら若い人に囲まれたNHKドラマ「新撰組」もそうだった。

これからも相変わらず風と波に漂う人生が続くんじゃないかなぁー。

「ふるさと土岐」もまだまだいっぱい自然が残っているよ。その自然を縫うように新しい自動車道が走り抜け、これから大勢の人が土岐に押し寄せてくる。楽しみだね。そして、今こういう時期だからこそ、「土岐のやきもの」にも頑張ってほしいな。西洋のしゃれた陶磁器やガラス製品も素晴らしいと思うよ。だけど一番ホッとするのは、やっぱり「土岐のやきもの」だね。色合といい、手触りといい、一つひとつ違っていて、何か人格のようなものさえあるような気がするんだ。この五十周年を機に、今後ますます「ふるさと土岐」の元気なニュースが聞けることを楽しみにしているよ。

俳優座時代の田中邦衛さん